

地域医療コース実習・演習

Advanced Course of On-site Training in Community Pharmacy

薬：L1-07503MY

コース科目 5年／前・後期 12単位 選択必修科目

科目責任者 小清水 治太(薬学教育研究センター／地域医療学)

■教育目的

11週間の薬局実務実習を基礎として、薬局の社会的役割と責任を理解し地域医療に参画する「就業体験型」の実習、および、地域医療における問題発見能力を養い解決法を提案できる「課題解決型の学習」に取り組むことによって、地域医療に貢献する薬剤師業務のより深い知識、技能、態度を修得する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～⑥】

■学習到達目標

1. 地域社会での患者・顧客の健康管理において、患者・顧客から収集した情報を基に最善のアドバイスを行う。(知識・技能・態度)
2. 薬剤師の職能を地域社会に拡大し、在宅医療、地域医療、地域福祉、災害時医療、地域保健などの場で地域に貢献する。(知識・技能・態度)
3. 地域医療機関の医師およびその他の医療従事者との連携しコミュニケーションする。(知識・技能・態度)
4. 調剤、服薬指導、患者・顧客接遇、地域医療、セルフメディケーションなどにおける薬局薬剤師の社会的役割と責任を理解し行動する。(知識・技能・態度)
5. 地域医療における問題点を発見し、その解決法を提案する手法を習得する。(知識・技能・態度)
6. レポート(論文形式)作成およびプレゼンスキルを習得する。(知識・技能・態度)
7. 医療人として必要な責任感のある態度を身につける。(態度)

■準備学習(予習・復習)

予習：事前学習を中心に知識・技能の向上をはかっておく。コース実習開始前にコース研究テーマ案を検討し、自己目標を定めておく。(実習準備期間 2 週間)

復習：毎日の実習内容を振り返り(60 分)、知識と臨床を繋げて修得する。

■授業形態

課題解決型学習(外部機関との連携あり)、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク、講義

■授業内容

No.	項目	授業内容	学修／SBOコード
1	事前学習	オリエンテーション、薬局業務の基礎知識(調剤報酬、OTC医薬品、調剤計算、医薬品名等)、コース研究テーマ策定演習、研究倫理講義、文献検索(Pub-Med、医中誌)、統計解析演習等を通してコース実習に備える。	B(3)～(4) F 関連領域の復習 G(1)～(3)
2	実習、演習	薬局実務実習を基礎とし、各実習施設の特徴に応じて 11 週間のアドバンス実習を行う。 各自の定めた 11 週間の目標達成および地域医療における問題点をテーマとしたコース研究に取り組み、知識・技能・態度を修得する。 週 1 日(金曜日)大学において SGD 形式のゼミに参加する。 多職種連携教育(IPE)へ参加する。	F(1)-①-1,2、②-4～6、③-13～15 F(2)-①-2～4、②-7,9～11、③-9～13,18,19、④-9～15、⑤-9～12、⑥-8～12 F(3)-①-5～7、②-2～6、③-7～10,12,13、④-4～13 F(4)-②-3,4 F(5)-③-6～9 G(1)～(3)
3	事後学習	コース研究のレポート(論文形式)作成および実習報告会でプレゼンテーションを行う。	G(3)

■授業分担者

小清水 治太(責任者)、下川 健一(副責任者)、中舘 和彦(副責任者)、植沢 芳広、大類 彩、尾上 洋、蒲生 修治、木村 真也、小関 珠美、斎坂 ゆかり、齋藤 望、高橋 朋子、田口 潤、田湯 正法、深水 啓朗、宮沢 伸介、望月 靖子、山田 聖子、横屋 正志

■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバックは、随時、担当教員、ゼミ教員および学生同士で行う。

事前講義・演習・IPE 参加、面談、事前講義テスト、実習日誌 10%、学内ゼミ 10%、レポート 20%、報告会 40%および指導薬剤師の評価 20%にて知識、技能、態度の評価を行う。